

令和 5 年 6 月 24 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18H03570

研究課題名(和文) 1970年代以後の人文学ならびに芸術における語りの形式についての領域横断的研究

研究課題名(英文) Interdisciplinary research on narrative forms in the humanities and arts since the 1970s

研究代表者

岡田 暁生 (Okada, Akeo)

京都大学・人文科学研究所・教授

研究者番号：70243136

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 21,400,000円

研究成果の概要(和文)：21世紀の人文学の「語り口」を模索しようとする本研究においてクローズアップされたのは、「アートを通じた人文知の感性的な社会発信」である。当初の計画ではアートと人文学のコラボによる「作品」の公開を最終年度に予定していたが、3年目にあたる2020年度にコロナ禍が起こり、その状況を受けて文芸理融合のオンラインイベントの試みとして「ぎふ未来音楽展2020 三輪真弘祭 - 清められた夜 -」(9月19日)(佐治賞およびサントリー音楽賞を受賞)をライブ配信、並行して岡田暁生『音楽の危機』を出版(小林秀雄賞を受賞)。また2023年8月には論文集『配信芸術』(アルテスパブリッシング)を出版の予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

人文学の危機とは近代市民社会を支えてきた人間性Humanitiesの危機である。すなわち全人類の問題であり、これを従来のような文字の媒体だけで広く社会に訴えることは難しい。理系研究にはそれを応用して社会に働きかける工学があるのと同じく、文系研究においても応用人文学が必要である。そして具体的にはそれは芸術と呼ばれてきたものにほかならない。多大な社会的注目を集める作品制作を達成できたことが本研究の最大の成果である。

研究成果の概要(英文)：In this research, which seeks to find a "narrative style" for the humanities of the 21st century, the focus has been on the "sensible dissemination of humanistic knowledge to society through art." In the original plan, we planned to release a work in collaboration with art and humanities in the final year, but in 2020, the third year, the corona disaster occurred, and in response to the situation, we tried an online event that fuses the humanities and sciences. , published a book by Okada in parallel. In 2023, we plan to publish a collection of papers summarizing the results.

研究分野：音楽史

キーワード：人文学 芸術 配信 音楽 物語

## 1. 研究開始当初の背景

「大きな物語」(リオータル)への忌避感は、20世紀終わりの約四半世紀より21世紀の今日に至るまで、人文学の諸領域を暗黙の裡に強く規定してきた心性の一つである。それどころか、大きな物語を語らない/語れないというプロットこそが、この半世紀弱の人文学の諸領域にとっての「普遍的な物語」だったとすら言える。他方で芸術創作においても、文化産業が相変わらず感動物語を大量生産する一方で、ポストモダンが喧伝されるようになる1970年代以後、大文字の「芸術」への懐疑、ユートピア(反ユートピア)を希求する前衛芸術の挫折、社会への異議申し立てより身近なコミュニケーションへの傾斜など、同種の傾向が際立つようになる。「癒し」や「コミュニケーション」の流行は、近代芸術が標榜してきた「大きな物語の啓示」からの離反を示唆するものであろう。これらはすべからず、近代が目指した「世界を統合的に語る主体」の危機として同根であり、極力「語る主体」を消すことを通し辛うじて、人文学の場合は「学的客観性」を、芸術創作の場合は「社会的有用性」を、それぞれ担保しようとしてきたのがこの半世紀弱であるとすら言える。しかし合理主義的な脱主体化モデル(科学ないし経済モデル)への過剰な接近により、「語る主体の力」を完全に消してしまえば、もはや人文学はデータの収集提示ないし「語りの主観性(恣意性)を批判する語り(相対主義)」に、そして芸術は単なる文化的装飾品となるよりほかあるまい。そしてこれこそが今日の人文学ならびに芸術の危機を招いたとすら言えるであろう。

本研究においては、18世紀啓蒙から20世紀前半に至る人文学ならびに近代芸術を貫いてきた欲望の共通分母として、科学的合理性 統合性(主体を通した「世界」への存在論的な問い)

ユートピア性 を想定し、現代をこの三つの前提が崩壊しつつある時代と考える。すなわち客観的合理性という点で、「ことば」を支えとする人文学は自然科学にはかなわず、近代芸術もそれ自体が内包していた科学志向(音楽に端的に見られる)の故に、今や情報工学やテクノロジー(ニューメディア)等に呑み込まれる危険にさらされ、また一人の「主体」によって過去ないし現在ないし未来についての統合的な見取り図を描くには、今日の情報化社会においてはあまりにも大量のデータが氾濫しすぎており、そして ホブズボームが「地すべり」と呼んだ1970年代から徐々に理想主義の退潮が始まり、ベルリンの壁崩壊以後それが決定的となるとともに、近代の人文学ならびに芸術創作の生命線であったユートピア啓示のダイナミズムは決定的なダメージを被ったと考えるのである。人文学における様々な相対主義の台頭、統合的な物語の回避、細かな事実収集によるデータベース形成の流行、芸術における「アート」や「コミュニケーション」の流行、いわゆるメインストリームの消滅、「古典」の価値崩壊、サブカルチャーと従来の公式文化との相対化などはすべて、近代の人文学ならびに芸術が信奉してきた「世界を統合的に語る力」の失調状態のあらわれとみなすべきであろう。

## 2. 研究の目的

今日の人文学の存立が危機的状況にあることは疑いない。それは社会から絶えず「何が出来るのか」を問われ続けている。本研究はこうした状況のルーツをポストモダンが喧伝される1970年代に求め、同時に、それが大文字の「芸術」創作の退潮と時代的に符号していたことに注目する。19世紀以来「大きな物語の啓示」を目指してきた人文学ならびに芸術は、この時期以降「語る主体」の否定への傾斜を強め、まさにそのことが今日の状況を招くことになったともいえる。この物語性回避のプロセスを、人文諸学および芸術創作にまたがる研究メンバーによって領域

横断的に検討し、かけ離れていると見える分野間に共通項を見出し、専門を異とする者の間で認識を共有することによって、「21世紀における新しい語りの形式」の可能性についての見通しを得ることが、本研究の目的である。

### 3. 研究の方法

申請者 2008～14 年度まで、京都大学人文科学研究所における共同研究班「第一次世界大戦の総合的研究」において、山室信一（京都大学名誉教授）とともに共同班長をつとめてきた。これは専門の異なる様々な人文系研究者による総合的な研究であり、「20世紀の起点」としての第一次世界大戦の相貌を多角的に明らかにしようとするものであり、ヨーロッパ、アジア、アメリカを専門とする歴史学者、音楽、映画、美術、文学を専門とする芸術史の研究者、さらには文化人類学や科学史や精神分析の研究者らを含む、総合的学際プロジェクトであった。またこのプロジェクトを引き継ぐ形で 2015 年度からスタートした人文科学研究所における共同研究班「現代 / 世界とは何か 人文学の立場から」は、「ポスト第一次世界大戦の時代」として「短い 20 世紀（ホブズボーム）」を考えようとするものであり、ここでも申請者は班長をつとめた。これらの成果を引き継ぎ、さらに発展させることを意図している本研究は、「20 世紀の終点」にして「21 世紀の起点」としての 1970 年代から今日に至る時代を、上述の二つの共同研究を通して形成された研究者ネットワークを核にしながら、かつそれを国内外また研究者ネットワーク内外にさらに広げつつ、人文学および芸術創作の諸領域に携わる専門家たちによる共同研究の形で明らかにしようとするものである。

### 4. 研究成果

21 世紀の人文学の「語り口」を模索しようとする本研究においてクローズアップされたのは、「アートを通じた人文知の感性的な社会発信」である。当初の計画ではアートと人文学のコラボによる「作品」の公開を最終年度に予定していたが、3 年目にあたる 2020 年度にコロナ禍が起こり、はからずも極めて現代的な状況、すなわち世界的社会危機において人文学にながら発信できるかが問われる状況が到来した。すでに 2 年目までに、研究会において「集うこと」と「食べること」、そして「生命とモノの境界線」の今日的意味についての議論が交わされており、アートによる人文知の社会発信を実践に移すタイミングはここしかないと思われた。分担者である作曲家の三輪眞弘によって制作されたオンライン・イベント「ぎふ未来音楽展 2020 三輪眞弘祭 - 清められた夜 -」（9 月 19 日）をライブ配信し、「集えない時代」の意味を問うものとして企画された。このイベントは特設サイトを設けた（英語版もあり）。当日リアルタイムのみの中継であったが、視聴回数は 3156、全体の 5%が海外からの視聴だった。また公演当日のウェブサイト訪問者は 2583 人、ページビュー数 9819 回であった。また 8 月 28 日にはオンラインでプレイベント：「プロローグ「音楽の終わりの終わり」は、ここからはじまる」を中継した。またそれと並行して代表者の岡田は研究班での議論に基づく論考『「第九」- 再び抱き合えるか』（8 月 4 日 朝日新聞朝刊全国版）を公表、三輪のイベントとセットの形で 9 月に発行された『音楽の危機』（中公新書）は四大新聞を含む 15 を超えるメディアの書評等で取り上げられ、1 月 1 日の NHK・FM で坂本龍一により紹介された。このほかに「生きるための人文学」三回の動画を制作し Youtube にアップ（11 月：2020 年 12 月末に合計 700 回以上再生）。これはパンデミック下の人文学の可能性を問うもので、疫病と世界史（藤原辰史）、コロナ禍の EU（遠藤乾）、未来の音楽の可能性（三輪眞弘）を論じた。なお 9 月 19 日のイベントは朝日新聞 12 月 17 日「2020 年の回顧」欄（音楽）において「今年の三点」に選ばれ、また 2020 年度のサントリー

音楽賞および佐治敬三賞を受賞する榮譽に欲した。これらの成果は2023年8月にアルテスパブリッシングより『配信芸術』という論集として出版の予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計41件（うち査読付論文 28件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 田辺明生	4. 巻 1
2. 論文標題 人新世 (Anthropocene) の世界人間学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『世界人間学宣言』	6. 最初と最後の頁 34-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akio Tanabe	4. 巻 1
2. 論文標題 "Transformation of the Socio-economic Structure in a Village Society in Odisha."	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 "New Stage of South Asian Agriculture and Rural Economy: Integrated Study on the Dynamism of Mobility in Land and Labor" (FY2016-21), edited by Koichi Fujita	6. 最初と最後の頁 91-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akio Tanabe	4. 巻 1
2. 論文標題 "From Sharing Risks to Taking Risks: The System of Entitlements and its Fragmentation in Eighteenth and Nineteenth Century Orissa".	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sustainable Development in India: Groundwater Irrigation, Energy Use, and Food Production, edited by Koichi Fujita and Tsukasa Mizushima, Routledge: London.	6. 最初と最後の頁 38-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤淳二	4. 巻 1
2. 論文標題 フーコーと啓蒙：自己へのオデュセイアの途上で	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 小泉義之・立木康介編 『フーコー研究』岩波書店	6. 最初と最後の頁 76-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本伸也	4. 巻 20
2. 論文標題 国境の街ナルヴァ:エストニアにおけるロシア語系移住民の記憶とアイデンティティの構築 也	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 第20回日韓歴史家会議報告書「越境をめぐる歴史」	6. 最初と最後の頁 121-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本伸也	4. 巻 270
2. 論文標題 (書評) フィリップ・サンズ、園田哲訳『ニュルンベルク合流----[ジェノサイド]と「人道に対する罪」の起源』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 西洋史学会	6. 最初と最後の頁 114-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田和彦	4. 巻 1
2. 論文標題 「文学」の失効を語るフーコーを巡って--統治性の変遷から見た文学の行方	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 小泉義之・立木康介編『フーコー研究』	6. 最初と最後の頁 181-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤原辰史	4. 巻 1
2. 論文標題 食権力論の射程	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 服部伸 編『生政治から見た「幸せ」になるためのせめぎ合いとその技法 身体と環境をめぐる世界史』(人文書院)	6. 最初と最後の頁 28-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田辺明生	4. 巻 114
2. 論文標題 反人種差別と靈的普遍主;日印ナショナリズムの交差と分岐	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文学報	6. 最初と最後の頁 159-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akio Tanabe	4. 巻 17
2. 論文標題 "Genealogies of the "Paika Rebellion": Heterogeneities and Linkages"	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Asian Studies	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Atsuo Morimoto	4. 巻 50
2. 論文標題 Marguerite Duras, une voix fant&ocirc;me : roman, th&eacirc;&acirc;tre, cin&eacute;ma, textes r&eacute;unis par Atsuo Morimoto et Gilles Philippe	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Zinbun	6. 最初と最後の頁 71-176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上田和彦	4. 巻 1145
2. 論文標題 告白とパレーシア 隷従化されない主体化を求めてー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 125-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上田和彦	4. 巻 XVIII
2. 論文標題 ブランショとヴェイユー非人格 = 非人称性からのポリティック	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 外国語外国文化研究	6. 最初と最後の頁 110-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小関隆	4. 巻 47
2. 論文標題 アイルランド革命から「大戦後」を考える	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 九州歴史科学	6. 最初と最後の頁 119-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤原辰史	4. 巻 832
2. 論文標題 二〇世紀の農業技術と戦争技術	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 25-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤原辰史	4. 巻 81
2. 論文標題 トラクターの社会史 (特集 農業機械の普及と文化)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 農業食料工学会誌	6. 最初と最後の頁 4-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本伸也	4. 巻 24
2. 論文標題 巻頭言 エストニア独立100年に寄せて----あるいは過去の想起をめぐる諸問題」『	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『比較経済体制研究』第24号	6. 最初と最後の頁 1 - 5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田和彦	4. 巻 0
2. 論文標題 分かりえないものに応える人文学	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山室信一編『人文学宣言』	6. 最初と最後の頁 104-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田和彦	4. 巻 0
2. 論文標題 「国民」という主権者の啓蒙の問題 - フランス「恐怖政治」の教訓『	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山室信一ほか編『われわれはどんな世界に生きているのか』	6. 最初と最後の頁 70-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井俊之	4. 巻 112
2. 論文標題 虚構原則への誘い ; 寺山修司『あゝ、荒野』を読む	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人文學報	6. 最初と最後の頁 1 - 26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井俊之	4. 巻 1131
2. 論文標題 名前、この名付けえぬもの ;ベンヤミンの初期言語論	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 83 - 103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井俊之	4. 巻 0
2. 論文標題 モデルネ 新しいものの思考法	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山室信一ほか編『われわれはどんな世界に生きているのか』	6. 最初と最後の頁 294 - 315
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井俊之	4. 巻 0
2. 論文標題 文学、人でなしの人文学	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山室信一編『人文学宣言』	6. 最初と最後の頁 30-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田辺明生	4. 巻 0
2. 論文標題 グローバル市民社会	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山室信一ほか編『われわれはどんな時代を生きているのか』	6. 最初と最後の頁 45-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田辺明生	4. 巻 0
2. 論文標題 南アジアの歴史人類学	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山室信一編『人文学宣言』	6. 最初と最後の頁 190-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田辺明生	4. 巻 0
2. 論文標題 第9章 独立後インドの社会と文化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 長崎暢子編『世界歴史大系 南アジア史4 近代・現代』	6. 最初と最後の頁 290-325
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田辺明生	4. 巻 1
2. 論文標題 生き延びてあることへの了解不能性から、他者とのつながりの再構築へ-----インド・パキスタン分離独立時の暴力の記憶と日常生活	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 田中雅一・松嶋健編『トラウマ研究1 ト라우マを生きる』	6. 最初と最後の頁 490-525
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田辺明生	4. 巻 83
2. 論文標題 インド・オリッサ州におけるトライブとダリット	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 マイノリティ研究会ニュース	6. 最初と最後の頁 24-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森本淳生	4. 巻 0
2. 論文標題 文学無用論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山室信一編『人文学宣言』	6. 最初と最後の頁 34-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤原辰史	4. 巻 0
2. 論文標題 脱人間の人文学	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山室信一編『人文学宣言』	6. 最初と最後の頁 74-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小関隆	4. 巻 0
2. 論文標題 作品としての人文学	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山室信一編『人文学宣言』	6. 最初と最後の頁 144-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三輪眞弘	4. 巻 0
2. 論文標題 私の人文学宣言	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山室信一編『人文学宣言』	6. 最初と最後の頁 150-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤淳二	4. 巻 0
2. 論文標題 「冷戦2.0」と人文学の使命	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山室信一編『人文学宣言』	6. 最初と最後の頁 166-169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田暁生	4. 巻 0
2. 論文標題 ストーリーの新しい形式を芸術に学ぶ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山室信一編『人文学宣言』	6. 最初と最後の頁 214-217
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤淳二	4. 巻 0
2. 論文標題 データリヴァイアサンの降臨	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山室信一ほか編『われわれはどんな世界に生きているのか』	6. 最初と最後の頁 25-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田暁生	4. 巻 0
2. 論文標題 前衛失速、電子音、波動化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山室信一ほか編『われわれはどんな世界に生きているのか』	6. 最初と最後の頁 116-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小関隆	4. 巻 0
2. 論文標題 核時代を生きるために	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山室信一ほか編『われわれはどんな世界に生きているのか』	6. 最初と最後の頁 157-177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本伸也	4. 巻 0
2. 論文標題 ジェノサイドの想起と忘却をめぐる覚書	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山室信一ほか編『われわれはどんな世界に生きているのか』	6. 最初と最後の頁 202-222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤原辰史	4. 巻 0
2. 論文標題 ポロとクズの人文学	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山室信一ほか編『われわれはどんな世界に生きているのか』	6. 最初と最後の頁 335-356
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤原辰史	4. 巻 0
2. 論文標題 トラクター・ルイセンコ・イタイイタイ病	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 坂野徹・塚原東吾編『帝国日本の科学思想史』	6. 最初と最後の頁 351-400
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tatsushi Fujihara	4. 巻 0
2. 論文標題 Colonial Seeds, Imperialist Genes	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Engineering Asia: Technology, Colonial Development and the Cold War Order	6. 最初と最後の頁 137-161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計23件 (うち招待講演 18件 / うち国際学会 9件)

1. 発表者名 橋本伸也
2. 発表標題 国境の街ナルヴァ:エストニアにおけるロシア語系移住民の記憶とアイデンティティの構築
3. 学会等名 第20回日韓・韓日歴史家会議「越境をめぐる歴史」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Atsuo Morimoto
2. 発表標題 ノン=ヒューマン から ポスト=ヒューマン へ(Introduction: Non-humain au Post-humain)
3. 学会等名 Les Humanités post-humaines (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tatsushi Fujihara
2. 発表標題 Japan in the "New Normal" - The "Spanish Influenza" in 1918-1920 and COVID-19 in Japan
3. 学会等名 The 14th Annual National Conference of Japanese Studies Association of Thailand (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三輪眞弘
2. 発表標題 ぎふ未来音楽展
3. 学会等名 サラマンカ・ホール（オンライン）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三輪眞弘 岡田暁生
2. 発表標題 プロローグ「音楽の終わりの終わり」は、ここからはじまる。
3. 学会等名 サラマンカ・ホール（オンライン）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Akio Tanabe
2. 発表標題 “Democracy and Development in Tension: Predicament of Politico-economic Stalemate among the Dongria Khonds in Odisha, India,”
3. 学会等名 International Conference on 'Globalizing Life World and Transformation of Political Sphere' Institute for Development and Communication (IDC)（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三輪眞弘
2. 発表標題 「箏と風鈴のための、もんじゅはかたる」を世界初演
3. 学会等名 ぎふ未来音楽展2019 ガラ・コンサート&シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三輪眞弘
2. 発表標題 「IAMAS校歌」(2019)を再演
3. 学会等名 ソフトピアジャパン、IAMAS 2020展タイムベースドメディア・ガムランコンサート
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三輪眞弘
2. 発表標題 フォルマント兄弟の新作「自律的音声生成装置」発表会&いまいけぶるじえくとのための「ボイパと朗読」世界初演
3. 学会等名 豊中市立文化芸術センター、「身体のTRANCE 人体音楽祭～身体なき声なき身体～」をプロデュース(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三輪眞弘
2. 発表標題 「虹機械 公案 - 001」(2015)を再演
3. 学会等名 東京オペラシティリーリサイタルホール、日本の作曲家2020「大井 浩明 ピアノリサイタル」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三輪眞弘
2. 発表標題 女声傍観者達と5人の男声歌手のための「火の鎌鼬」(2014)再演
3. 学会等名 横浜みなとみらいホール、Just Composed 2020「合唱の未来形」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Takashi Koseki
2. 発表標題 'The End of 'Post-wars' Europe: Introductory Remarks on Brexit
3. 学会等名 European Crisis in Historical Perspectives (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋本伸也 (オーガナイザー)
2. 発表標題 ニコライ・コボソフ教授連続セミナー
3. 学会等名 京都大学人文科学研究所およびロシア史研究会 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上田和彦
2. 発表標題 フランス革命における後見人の問題
3. 学会等名 日本18世紀学会第40回大会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上田和彦
2. 発表標題 非人格性からの ポリティック
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会2018年春季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akio Tanabe
2. 発表標題 Democracy and Development in Tension: Predicament of Politico-economic Stalemate among the Dongria Khonds in Odisha, India
3. 学会等名 International Workshop : Rethinking Development: Network, Brokers and Devotion ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akio Tanabe
2. 発表標題 Recent Socio-economic Changes in Niyamgiri Region in Odisha, India: With Special Attention to Scheduled Tribes and Scheduled Castes
3. 学会等名 International Workshop : New Stage of South Asian Agriculture and Rural Economies
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田辺明生
2. 発表標題 日印知的交流の歴史と現代的意義
3. 学会等名 第一回シンポジウム「日印交流の現状と展望 - プラットフォーム構築に向けて」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田辺明生
2. 発表標題 インド文明とアフロユーラシア - エジプトとの比較
3. 学会等名 講演会「エジプトと“環ユーラシア文明”」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田辺明生
2. 発表標題 多様性社会としてのインド - 南アジア型発展径路を考える
3. 学会等名 シンポジウム「インドの価値観と社会構造 - 日本と西洋との比較研究」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田辺明生
2. 発表標題 部族民と不可触民 インドにおける差別の諸形態
3. 学会等名 人文研アカデミー2018「人種神話を解体する 可視性と不可視性のはざまで (In) Visibility」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田辺明生
2. 発表標題 インド史への視座 - 多様性の統合
3. 学会等名 インド史(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤原辰史
2. 発表標題 給食の日本史
3. 学会等名 国際シンポジウム「国民・国家・食」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

## 〔図書〕 計15件

1. 著者名 岡田暁生	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ちくま書房	5. 総ページ数 271
3. 書名 モーツァルト よみがえる天才	

1. 著者名 岡田暁生	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中公新書	5. 総ページ数 256
3. 書名 音楽の危機	

1. 著者名 藤原辰史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 創元社	5. 総ページ数 357
3. 書名 農の原理の史的研究	

1. 著者名 岡田暁生	4. 発行年 2019年
2. 出版社 世界思想社	5. 総ページ数 254
3. 書名 音楽と出会う	

1. 著者名 藤原辰史編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ	5. 総ページ数 208
3. 書名 歴史書の愉悦	

1. 著者名 田辺明生	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学出版局	5. 総ページ数 422
3. 書名 田辺明生・竹沢泰子・成田龍一編 『環太平洋地域の移動と人種; 統治から管理へ、遭遇から連帯へ』	

1. 著者名 森本淳生	4. 発行年 2020年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 228
3. 書名 『マルグリット・デュラス 声の幻前 小説・映画・戯曲』（ジル・フィリップと共編）、	

1. 著者名 藤原辰史	4. 発行年 2019年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 341
3. 書名 分解の哲学	

1. 著者名 足達太郎・小塩海平・藤原辰史共著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 256
3. 書名 農学と戦争 知られざる満洲報国農場	

1. 著者名 アドルノ / 岡田暁生・藤井俊之訳	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 470
3. 書名 幻想曲風に	

1. 著者名 ユーリー・コスチャシヨーフ / 橋本伸也・立石洋子訳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 290
3. 書名 創造れされた「故郷」----ケーニヒスベルクからカーリーニングラードへ	

1. 著者名 岡田暁生・藤原辰史・小関隆・山室信一（編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ	5. 総ページ数 370
3. 書名 われわれはどんな「世界」を生活しているのか: 来るべき人文学のために	

1. 著者名 三原芳秋、田辺明生、常田夕美子、新部亨子（共訳）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 みすず出版	5. 総ページ数 432
3. 書名 異議申し立てとしての宗教	

1. 著者名 小関隆	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 360
3. 書名 アイルランド革命 1913-23 第一次世界大戦と二つの国家の誕生	

1. 著者名 藤原辰史	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 268
3. 書名 給食の歴史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>生きるための人文学 第一回「歴史学から考える新型コロナウイルス」  <a href="https://www.youtube.com/watch?v=sqCxLzSSBwIc&amp;t=26s">https://www.youtube.com/watch?v=sqCxLzSSBwIc&amp;t=26s</a>          生きるための人文学 第二回「コロナ危機下の欧州」  <a href="https://www.youtube.com/watch?v=feBTA0qQMcl&amp;t=1006s">https://www.youtube.com/watch?v=feBTA0qQMcl&amp;t=1006s</a>          生きるための人文学 第三回「コロナ時代の未来の音楽」  <a href="https://www.youtube.com/watch?v=K7hQaczPtS4">https://www.youtube.com/watch?v=K7hQaczPtS4</a></p>
--

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤原 辰史  (Tatsushi Fujihara)  (00362400)	京都大学・人文科学研究所・准教授    (14301)	
研究分担者	小関 隆  (Takashi Koseki)  (10240748)	京都大学・人文科学研究所・教授    (14301)	
研究分担者	三輪 眞弘  (Masahiro Miwa)  (20336647)	情報科学芸術大学院大学・メディア表現研究科・教授    (23703)	
研究分担者	橋本 伸也  (Nobuya Hashimoto)  (30212137)	関西学院大学・文学部・教授    (34504)	
研究分担者	佐藤 淳二  (Junji Sato)  (30282544)	京都大学・人文科学研究所・教授    (14301)	
研究分担者	森本 淳生  (Atsuo Morimoto)  (90283671)	京都大学・人文科学研究所・准教授    (14301)	
研究分担者	上田 和彦  (Kazuhiko Ueda)  (90313163)	関西学院大学・法学部・教授    (34504)	
研究分担者	田辺 明生  (Akio Tanabe)  (30262215)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授    (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤井 俊之 (Toshiyuki Fujii)  (30636791)	京都大学・人文科学研究所・助教   (14301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関